図書紹介・New Publications

魚類学雑誌
47(2): 144-145

□ 系統分類学・進化学

Molecular evolution and phylogenetics. —M. Nei and S. Kumar. 2000. Oxford Univ. Press, New York. 333 pp. ISBN 0-19-513584-9. この分野の世界的スペシャリスト，ペンシルバニア州立大学のMasatoshi NeiとSudhir Kumarの共著による分子進化と系統分類に関する最新本．本書は，Neiによる既刊書Molecular evolutionary geneticsの姉妹篇であり，その目的は分子進化研究に有用な統計方法を提示すること，およびそれを実際のデータにいかに応用するのかを論じることにある．第1章の「進化における分子基盤」から，第13章の「分子マーカーから構築される集団系統樹」および第14章の「今後の展望」まで，豊富な実績とデータで裏打ちされた内容が分かりやすく記述されている．魚類を対象に本分野の研究を志している人たちには必読の書と言えよう． (AG)

□ 魚類生態学

水辺遊びの生態学． —嘉田由紀子，遊磨正秀．2000．農山漁村文化協会（人門改書231），東京．210 pp. ISBN4-540-99268-6. 1714円（税別）．琵琶湖は，日本でもっとも魚類相の豊富な地域の一つであり，魚その他の生物をめぐって様々な文化がはぐくまれてきた．本書はこの地域にすむ三世代の人々の語りから，水辺遊びがいかに深く日常生活にとけこんでいたかを説得的に紹介している．魚やホタルをめぐる現代の民俗学とでも言えようか．第7章「水辺に子どもの姿を呼び戻すには」では水辺の遊び文化の復権を訴えている．それにしても琵琶湖はすっかり変わってしまったのだと実感した． (OK)

貝に卵を生む魚． —福原修一（長田芳和監修）．2000．トンボ出版，大阪．79 pp. ISBN4-88716-115-8. 1800円（税別）．婚姻色が美しく，二枚貝への産卵という独特の繁殖様式をもつタナゴの生態をわかりやすく解説している．タナゴやその卵の写真が美しく，イラストも興味深い．しかしタナゴの仲間には希少種が多い。環境の悪化に加えて，外来魚やマニアによる被害が大きいという．生息地から消えたイタセンパラと二枚貝がペットショップで売られていたというエピソードは笑えない． (OK)

淡水生物の保全生態学ー復元生態学に向けて． —森　誠一（編著）．1999年．信山社サイテック，東京，247 pp. ISBN 4-7972-2517-3 C3045. 2800円（税別）．1960年代の高度経済成長期以降，日本の河川や湖沼などの淡水環境は急激な人為的改変によって変貌を遂げ，そこに生息する生物の生活，個体群および群集に大きな負の影響をもたらしたことは周知の事実である．本書は，淡水環境とそこに生息する生物の実態を科学的（生態学的）に把握し，本来の意味における「自然への配慮」の視点に立って，その保全と復元を目指したパイオニア的意欲作であると言える．第1章の「生態と環境の変化」から第5章の「湖沼の生物環境とその後」および第6章の「活用のために：地域の中から」までの6章から構成され，編著者を初め多くの魚類学会員が執筆に当たっている．ただ本書は，この分野の萌芽的著作であることとも関係して，淡水生物と名うってはいるが，魚類以外の生物にはカメと数種の二枚貝が登場するに過ぎない．また，本書の姉妹編とも言える，同じ編著者による「魚から見た水環境ー復元生態学に向けて／河川編」（1998年，同社）に対して，本図書紹介覧で「群集生態学的視点が弱い」と批評したことを意識してか，編著者が「わが国において，群集生態学に対して真っ向から取り組んでいる研究者がほとんどいないから」という理由を挙げて，「ここに収められた論文には，群集生態学的な視点に立った保全生態学へのアプローチはない」と述べているのはどう見てもいただけない．というのは，少ないとは言え，魚類（淡水生物）群集生態学者の研究成果を，編著者自身が種々の事情から本書に積極的に取り入れる努力を怠っていると思われるからである． (AG)

□ その他

クニマス百科． —杉山秀樹（編著）．2000．秋田魁新報社，秋田．239 pp. ISBN4-87020-205-0. 1800円（税別）．戦争と動乱の時代のことである．昭和15年，国策の発電事業の一環として田沢湖に玉川の強酸性水が導入され，固有魚クニマスは絶滅した．残された標本約20個体，文献約20報．生きたクニマスを知る人も80歳を越えつつある．我々の責任および義務として，“一度殺したクニマスを二度殺さない”ためにできることは，“クニマスが存在していたことを記憶にとどめておく”ことと，上記標本，文献，聞き取りに加え，試験場や組合記録，水揚台帳，新聞，果ては手紙までも集め，紐解いて残した，クニマスの生物学，資源，漁業，増殖，環境，文化，そして滅亡の歴史についてのひたすらな記録．クニマスの鎮魂歌であり，滅ぼした我々への警鐘でもある． （酒井治己）

川に親しむ． —松浦秀俊．2000．岩波書店（岩波ジュニア新書353），東京．187 pp. ISBN4-00-500353-2. 700円（税別）．高知県庁に勤めながら年間100日は川に通い，魚を釣ったり獲ったりするという著者が，川の魚やその他の小動物との遊び方をわかりやすく解説している．子供向けの本ではあるが，著者自身の体験をふまえて，河川環境や魚の生態が生き生きと描かれており，大人が読んでもおもしろい．第1章「川はワンダーランド」から，第6章「これからの川とのつきあい方を考えよう」まで，川の動物たちを紹介するとともに，川への入り方や魚の捕り方，飼い方を説明し，川と人間の未来について論じている．川や小川を次々に埋め立てコンクリートで固めている人たちに読んでもらいたい． (OK)

Coral sea reef guide.—B. Halstead. 2000. Sea Challengers, 321 pp. ISBN 0-9700574-0-7. 44.95 US $. 今まで2種類のガイドブック（紅海,1998/インド洋,1999）を出してきたダイヴァー，ヘルムート・デベリウス監修の最新刊である．今回グレイト・バリア・リーフ，パプア・ニュー・ギニアからニュー・カレドニアまでのサンゴ海に棲息する動物，約1000種を収録している．美しい海底写真に簡潔な解説で，著者自身が発見した種類も掲載，今話題のピグミー・シーホース，ミミック・オクトパス（2種），全身真っ赤な毛に被われたゴースト・パイプフィッシュの1種など，かなり稀な動物も登場する．ヤスジチョウチョウウオ，バージェス・バタフライフィッシュ，コリンズ・ピグミー・エンジェル，新しい*Hoplolatilus pohle*など，同海域の魚類図鑑（ランドールら，1997）とは異なる種類もあり，著者がカヴァーした海域はやや広く，ビスマルク海も含めている点は誤解を招くかも知れない．写真には撮影場所を付けているが，中には海域から逸脱した場所で撮った写真もある．著者が述べている通り，ユージニ・クラーク，ジョーン・ランドールなどが種の判別に関与しているが，中にはランドールが認めない名前（*Centropyge woodheadi*）もあると言う．監修者の意見を採り入れた結果であろう．ダイヴァー間で話題のポビット・ワームや，人気のエビ・ウミウシ類の紹介も多く，無脊椎動物に1000頁も割き，その分ベラ，スズメダイ，ブダイの項にはやや物足りなさを感じる．学術的な価値はあまり認められないが，1000ものポピュラー種を，実にコンパクトにカラー写真で収めた本シリーズは他に類を見ず，ダイヴァーやアクアリストにとって，今後に期待が持てる．

（田中宏幸）

会員通信・News & Comments

魚類学雑誌
47(2): 145–148

中野　繁氏を偲ぶ
Memoirs of Dr. Shigeru Nakano (1962–2000)

いまだに信じられない．まさか，なぜ，という言葉をあの日以来私たちは何百回繰り返しただろうか．2000年3月27日（日本時間同28日），京都大学生態学研究センターの中野　繁助教授を含む9人の研究者を乗せた全長7.6 mのボストン・ホエーラー型のモーターボートがメキシコ（バハカリフォルニア）のコルテス海に面するバイア・デ・ロサンヘレスの沖合いで高波に呑み込まれ転覆した．中野さんらは，カリフォルニア大学デービス校のゲーリー・ポリス教授率いる陸域（砂漠）と水域（海洋）の生物の相互作用の研究チームに同行し，現地調査を見学中だった．数時間の漂流を経て4人は自力で近くの島に泳ぎ着き翌朝救助されたものの，ポリス教授，京大生態研センターの安部琢哉教授および東　正彦教授ら4人が亡くなり，中野さんは行方不明となった．船には十分な数の救命胴衣が準備されていなかったという．メキシコ海軍等による懸命の捜索にもかかわらず，今日に至るまで中野さんの消息はいまだに不明である．事故当時の状況の詳細が未だに明らかにされていないものの，その後の時間の経過からこのたび死亡認定が下されて諸般の手続きがとられることになった．まことに痛恨のきわみであるが，ご家族，また私たちも，心に区切りをつけなければならぬ時がきた．中野さんは37歳の若さだった．

私は1995年から1999年までの間，北海道大学農学部附属苫小牧地方演習林において博士後期課程の学生として中野さんの指導のもとでイワナ属魚類の種間競争の研究に携わった．中野さんは「先生」と呼ばれるのを好まず，しがたってそう呼ぶ学生もいなかったので，ここでもそれに準じ，他の諸先生方も「さん」付けでお呼びすることをお許し願いたい．

1999年10月10日，苫小牧の樽前神社にて七五三のお参りをする中野さんと妻の弘美さん，お子さんの菜奈ちゃん（7歳），憧弥くん（5歳），湧弥くん（10カ月）．